

今年度は「**感染症の歴史**」をテーマに、世界や日本で流行した感染症と人類の戦いの歴史について特集していきます！

### ◆梅毒とは

**梅毒**は梅毒トレポネーマという細菌によって引き起こされる性感染症です。病名は症状である赤い発疹が楊梅（ヤマモモ）に似ていることに由来します。全世界でみられる感染症で、なかでも男性は20～40歳代頃に、女性は20歳代に多くみられるといわれています。梅毒は性行為を通じて主に感染し、感染初期には感染部位にしこりができることが多く、進行すると全身の発疹など様々な症状があらわれます。長い潜伏期間を経て水面下で重症化していき、適切な治療を受けないと脳や心臓に重大な合併症を起こすがあります。また、妊娠中の感染は流産、死産、先天梅毒などを引き起こすリスクがあります。



↑梅毒トレポネーマの電子顕微鏡写真

梅毒は**早期の適切な抗菌薬治療で完治が可能**です。十分に治療されないと病気が進行することもあるため、症状がよくなっても自己判断で治療を中断しないようにすることが重要です。また、治療によって完治した後でも新たに感染することがあり、予防が必要です。

### 梅毒の歴史

#### 梅毒の感染起源

梅毒の感染起源については、現在も明らかになっておらず、議論が続けられている。アメリカ大陸を発見した**コロンブス**とその乗組員らがアメリカ先住民と交わった際に感染し、それがヨーロッパに持ち込まれたという説が有力。

#### ヨーロッパの感染拡大

**1495年**にイタリアのナポリで突如流行し始め、瞬く間にヨーロッパ中に広がり**約500万近く**の命が失われたと言われている。当初は非常に激しい症状を引き起こし、感染者の多くが数週間から数ヶ月で死亡したと記録されている。フランス病、ナポリ病など敵対国の名で呼ばれ、各国は自国の感染を隣国のせいにし、感染者を厳しく取り締まった。また梅毒は「**ヴィーナス病**」とも呼ばれ、感染した者は女神の罰を授かった者と道徳的に非難され、差別の対象となった。

#### アジア・日本へと拡大

当時のヨーロッパは**大航海時代**であり、**1498年**にはインドへ、**1505年**には中国へと伝播した。中国で広がった梅毒は日本でも広がり、**1512年**には京都市中で流行した。当時の交通事情を考えると驚くべき速さで世界中に広がり、今までの疫病とは比べ物にならない**わずか20年でアジアへと感染を広げた**。

#### 不十分な治療と社会的影響

500年近くにわたり、水銀や砒素、漢方などを用いた不十分な治療法が行われたが、効果は限定的で、多くの患者が長期にわたる苦しみを強いられた。感染者は差別や偏見により社会から隔離され、特に売春婦は梅毒蔓延の主な原因と見なされ、厳しい取り締まりの対象となった。一方で、梅毒は芸術家や知識人の間でも流行し、創造性を高めるといった誤った考えから、感染を望む者さえいた。

#### 病原体の発見と研究の進展

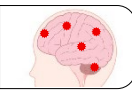
**1905年**、フリッツ・シャウディンとエーリッヒ・ホフマンにより**梅毒トレポネーマが発見**。**1908年**、ドイツ人細菌学者のバウル・エールリヒと日本人細菌学者の秦佐八郎が梅毒特効薬となる「**サルバルサン**」の開発に成功。さらに、**1928年**にアレクサンダー・フレミングによって「20世紀の偉大な発見」とも称される**ペニシリン**が発見される。ペニシリンの普及により、第二次世界大戦以降、梅毒は効果的かつ確実に治療されるようになり、かつての脅威は見られなくなった。

### ◆梅毒の現状

治療方法が確立され感染者が減少した梅毒ですが、近年**世界的に感染が再拡大**しています。日本では2010年頃から感染者数が急増していて、2023年の感染者数が統計を取り始めた1999年以降最多を記録しました。特に大都市圏（東京・大阪・福岡）での感染拡大が顕著です。

梅毒は治療可能な感染症であるにもかかわらず、無症状期間が長く、早期発見が困難です。発症後は症状が軽くなったり一時的に消えたりする時期があるため、感染に気づきにくく、治療の開始が遅れてしまう危険があります。早期に適切な治療を受ければ、完治が可能な病気です。梅毒が疑われる症状や感染の心当たりがあるときは、すぐに検査を受け、早期発見・早期治療を心がけましょう。なお梅毒は、いったん完治しても、再感染を予防する免疫が得られない感染症であるため、完治後も再度感染する危険性があることに注意が必要です。

#### 梅毒感染・潜伏期間(0～3週間)

1期 (3週～)	性器・肛門・口に3mm～3cm大のできものが出現	
2期 (3ヶ月～)	手のひら・足の裏・体に赤い発疹ができる ※発疹は半年以内に跡を残さず消えるが、症状はなくても感染力はある	
3期 (3年～)	全身で炎症が進行する	
4期 (10年～)	脳・心臓に病変ができることがある	



# ～子どものための栄養だより～

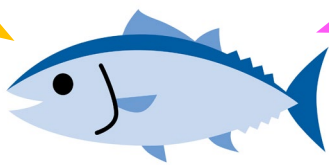
## もっと魚を食べましょう！



### 「魚」にはどんな栄養があるのかな？

**DHA:** 脳の働きを活発にし  
記憶力や学習能力を高める

**EPA:** 血液をサラサラにする



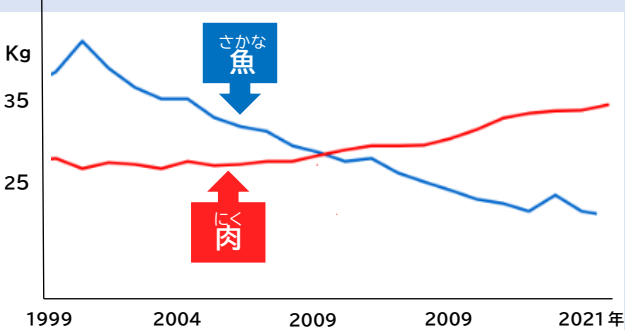
**カルシウム:** 骨や歯の材料になる  
(魚の骨に多く含まれる)

**タンパク質:** 体をつくる材料になる

**ビタミンD:** カルシウムの吸収を助ける

魚には、体の成長に必要な「タンパク質」や「カルシウム」がいっぱい含まれています。「カルシウム」は魚肉には少なく骨に多く含まれているので、シラス干しなどの小魚は骨ごと食べられておすすめです。「ビタミンD」や「DHA・EPA」は、特に青魚(イワシ・サバなど)やサケに多く含まれています。

### 肉と魚、どっちを多く食べている？

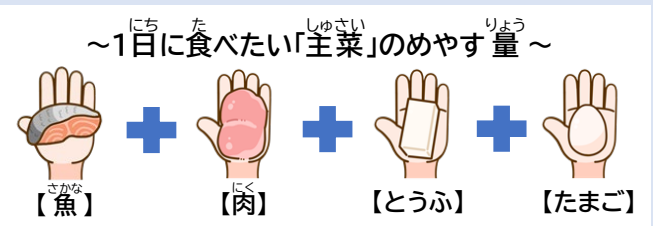


魚を食べる量は年々減っていき、今では魚より肉を食べる量の方が増えています。

魚には、肉にほとんど含まれていないビタミンDやDHA・EPAがたくさん含まれています。

### 肉と魚をバランスよく食べましょう！

昼ごはんが「肉料理」なら夜ごはんは「魚料理」にするなど、3食のうち1食は魚を食べましょう。



1食で食べるめやすは、それぞれ「片手にのる量」です。魚、肉、大豆・大豆製品、卵をバランスよく食べるようにしましょう。

## 今月の音だより ～「もみじ」

「もみじ」は、高野辰之作詞、岡野貞一作曲の唱歌。2006年に「日本の歌100選」に選定されました。作詞者の高野辰之は、碓氷峠にある駅から紅葉を眺め、その美しさに惹かれてこの詞を作ったそうです。



(By 桜餅 Duo ☆)

秋の夕日に てるやまもみじ こいもうすいも 数ある中に 松をいろどる かえでやつたは 山のふもとの すぞもよう  
たにのながれに ちりうくもみじ なみにゆられて はなれてよって 赤や黄色の 色さまさまに 水の上にも おるにしき

